

タイトル：2020 年度研究セミナー（第 21 回）

日時：2020 年 12 月 19 日（土）～20 日（日）

オンライン開催

「オスマン帝国末期のユダヤ共同体における路線対立：シオニストと反シオニストとの論争より」

岩元 恕文（九州大学人文科学府）

数年前に第 13 回中東・イスラーム教育セミナーに参加させていただき、またその感想では「次回のセミナーでは発表したい」と記した。そして今回、2020 年度の研究セミナーにて発表することができた。大変嬉しく思う。今回のセミナーはオンライン開催ということもあり、どのように進行していくのか少し心配だった。しかし、主催者の皆様のおかげで、ストレスを感じることなく受講することができた。

今回の発表では、博士論文の作成を進めるために、修士論文とは全く異なる時代をとりあげることにした。具体的には、これまでトルコ共和国初期のユダヤ人とトルコ社会について扱ってきたのに対し、今回はそれより約 20 年前のオスマン帝国末期のユダヤ共同体内の論議を分析することにした。また、修士論文ではオスマン語、フランス語の史料を用いていたが、今回は新たにユダヤ・スペイン語の史料も用いることにした。このように、これまでに扱ったことがない領域と言語であったため、研究で得ることのできた成果をどのように取り扱い、分析し、評価すればいいのか、自分でも悩んでいた。しかし、研究発表とその後の質疑応答での、参加者の皆さまや先生方からの指摘のおかげで目が開かれた。自分ではユダヤ共同体内でのシオニストと反シオニスト間の「路線対立」だと思っていた論議が、そうではなく、各々の政治組織による帝国政府や世論への働きかけではないかということに気が付いたからである。

本セミナーは発表と質疑応答にそれぞれ 60 分設けられており、通常の学術発表では得難いような具体的かつ詳細な議論を行うことができた。また同時代の他の地域における類似の構造の議論について教えてもらえ、比較検討を行う上で大変有意義だった。他にも参加者の方々に、史料上の用語や定義の仕方に関する事などの、自分だけでは気が付きにくいことを指摘してもらうことができ、とても良い時間を過ごすことができた。

また、セミナーに参加した他の参加者の皆さん、そして篠田先生による博士論文執筆についての発表を聞いたことも大いに有益だった。今回は台帳や法令集をもとに特定の時代についての実像を明らかにするという研究が多かったように思われる。新聞などの定期刊行物を主とする自分とは異なる観点から調査をするこれらの研究から、学ぶことも多かった。オンラインでのセミナー開催は、参加者のみならず主催者側にとっても慣れないことが多いと思うが、双方の協力で少しずつ改善がしていければと思う。主催者や事務局の皆様にお礼を申し上げたい。